

平成30年第2回3月定例会

平成30年第2回3月定例会は、2月27日に開会し、会期21日間をもって3月19日に閉会しました。

この間、市長提出の議案57件を審議し、定例会最終日の3月19日には、議案などの採決を行いました。

3月定例会では、3月5日から3月7日までの3日間、3会派の代表者が代表質問を、議員14名が議案質疑と一般質問を行いました。発言の要旨は、会派別に項目を整理し、4ページから9ページにかけて掲載しています。

自民クラブ

伊藤 孝 司 議員



- (代表質問)
- 1 平成30年度に向けての市長の所信について
 - 2 少子高齢社会への対応について
 - 3 空き地・空き家対策について

平成30年度をホップの年と位置付ける市長の思いは

問

市長は、平成30年度をこれまで加速した助走を生かし力強く大きくホップする1年としているが、市長就任後2度目の当初予算を編成するに当たり、どのような思いを込めたのか。また、具体的な取組内容はどのようなものか。

答

市長就任1期目の4年間を陸上競技の三段跳びにととえ、平成29年度を大きく力強くホップするため助走を加速させる1年と位置付け、市民福祉の増進に向けた体制づくりと市職員の意識改革に特に重点を置いて取り組んできた。

2年目となる平成30年度は、助走により蓄えた推進力を生かし力強い一步を踏み出すため、一つ上を目指す「ONE UP」をキャッチフレーズに、芽が出始めたさまざまな案件について、更なる進展を図ることで、地域経済や都市ブランドの底上げ、ひいては市民生活の底上げを実現するホップの年に行いたいと考えている。代表的な事業としては、ス



シティプロモーションのキャッチフレーズ・ロゴマーク

マートシティ西条の実現に向けて、学校教育現場におけるICT化をはじめ、健康福祉の増進、子育て支援、高齢者見守り支援、総合支所窓口における聴覚障がい者支援など、市民生活と直結する分野でのトライアル事業に取り組んでいきたい。

更には、全市域における地域自治組織の設立を目指したモデル地区の設置及び活動支援、市内全ての小・中学校と公立幼稚園へのエアコン設置など、市民が安心・安全・幸せを実感できるための政策の基礎固めを行い、これを基に加速度的に政策を推進する次のステップへとつなげていきたい。また、シティプロモーションを強力に推進し、西条で暮らすことの誇りや愛着をこれまで以上に醸成し、併せて市の知名度向上を図ることで、西条という選択をしてもらえるよう努めたい。

今後とも、効率的・効果的な行政運営に努め、全ては市民のためと肝に銘じて「ワクワク度日本一のみち西条」の実現に向けて全力で取り組んでいきたい。

堀江 幸 二 議員



- (議案質疑)
- 1 小・中学校施設長寿命化計画策定事業について
 - 2 小松温芳図書館改修事業について
 - 3 公共施設について
 - 4 市営住宅について

木造市営住宅に対する耐震化の考えは？

問

市内には、昭和40年代までに建設した木造の市営住宅が数多くあり、これらは旧耐震基準の建物である。今後、発生が予測される南海トラフ巨大地震への備えとして、市民の生命と財産を守る観点から、木造市営住宅の耐震化について、どのように考えているのか。